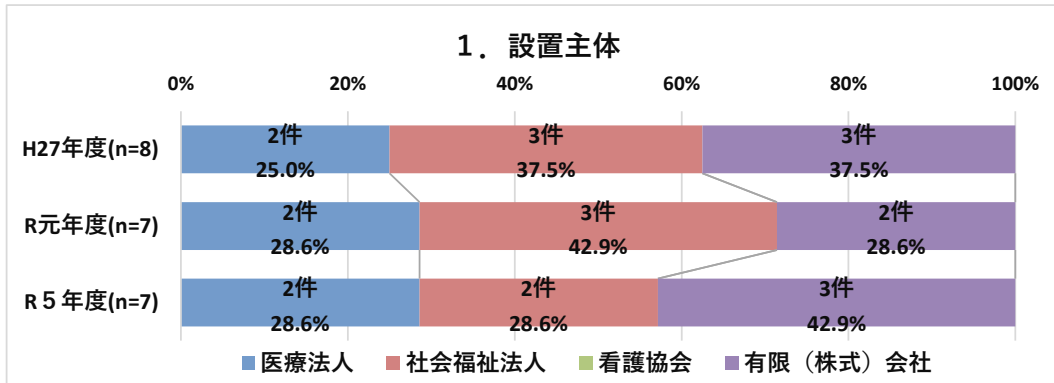


## 6. 訪問看護ステーション

- ・ H27年度：回答数 8ヶ所／対象数 8ヶ所 回答率 100.0%
- ・ R元年度：回答数 7ヶ所／対象数 7ヶ所 回答率 100.0%
- ・ R5年度：回答数 7ヶ所／対象数 7ヶ所 回答率 100.0%

### (1) 設置主体

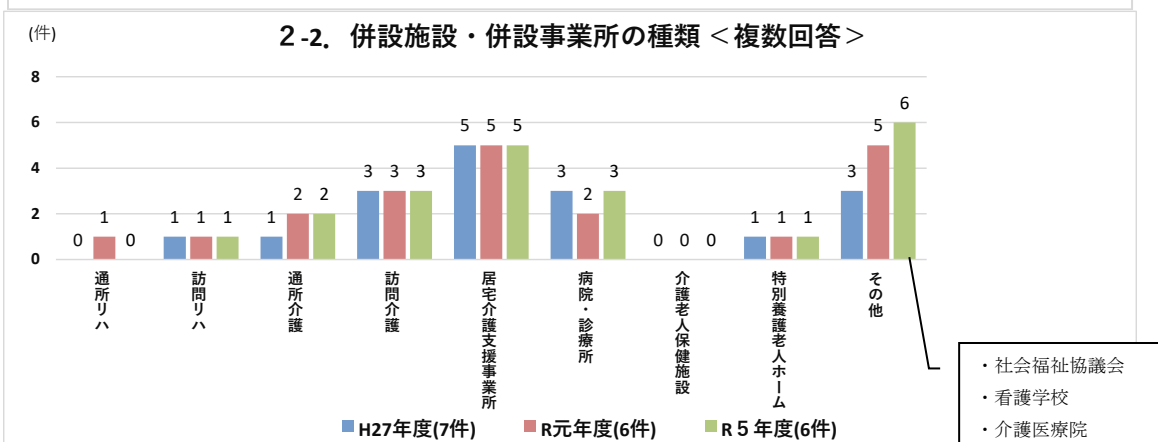
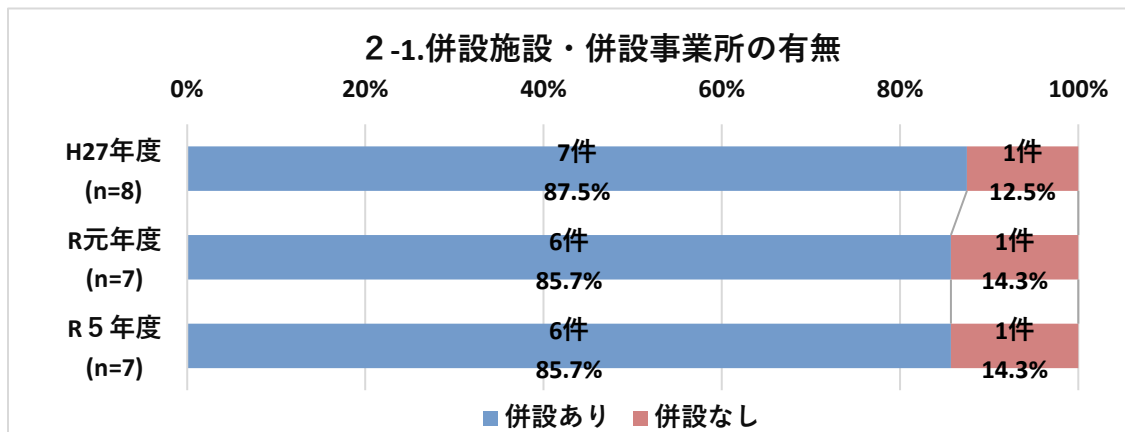
設置主体について、大きな変化は見られない。



### (2) 併設施設・併設事業所

併設する施設・事業所の種類は、「居宅介護支援事業所」が最も多い。

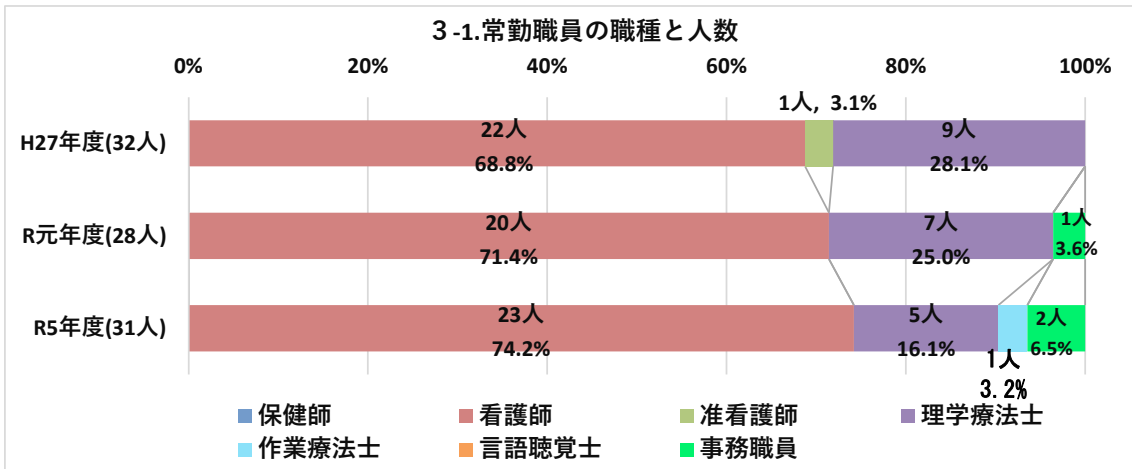
併設の有無や併設する施設・事業所の種類について、大きな変化は見られない。



(3) 職員の職種と人数(事業所数は n=7)

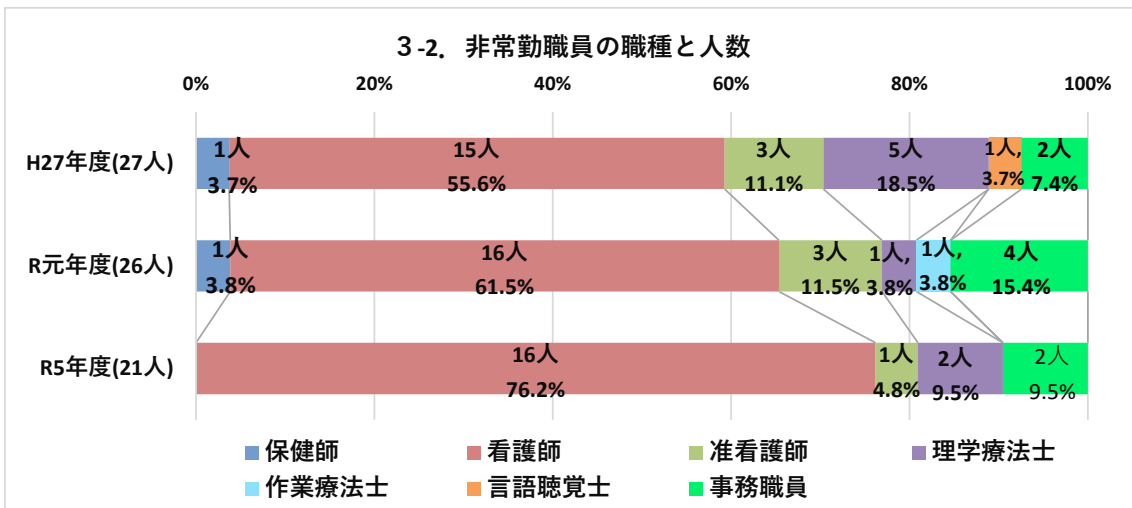
1) 常勤職員の職種と人数

常勤職員の職種について、看護師の他に、理学療法士・作業療法士・事務職員が在籍している。また、理学療法士が減少している。



2) 非常勤職員の職種と人数

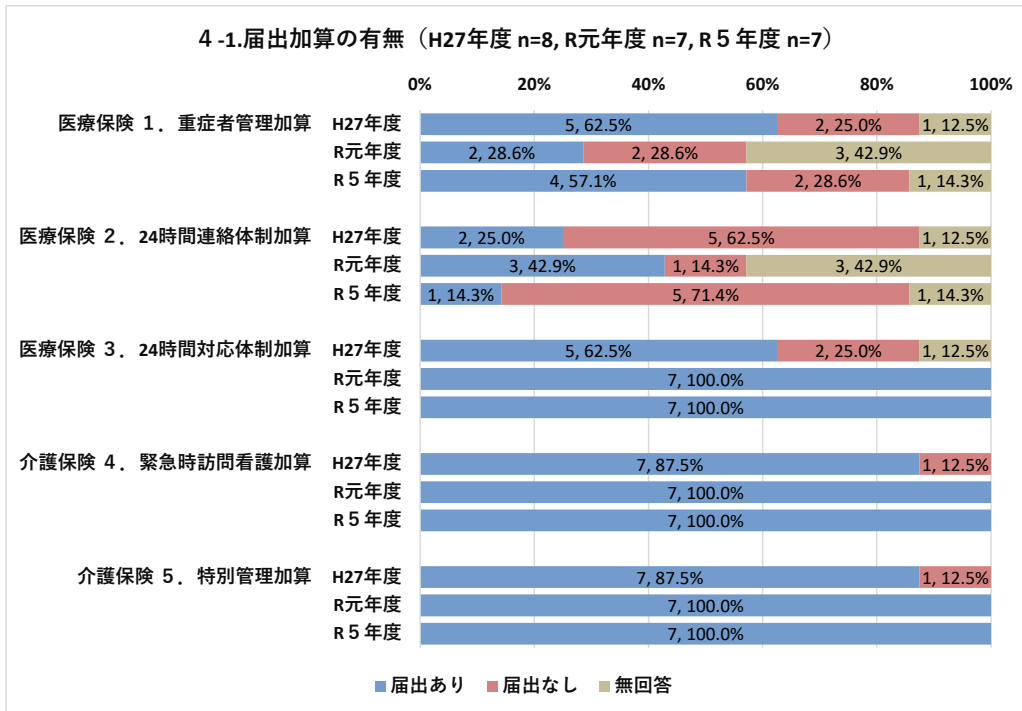
非常勤職員数は、年々減少している。非常勤職員の職種について、看護師の他に、理学療法士・准看護師・事務職員が在籍している。



(4) 届出加算項目

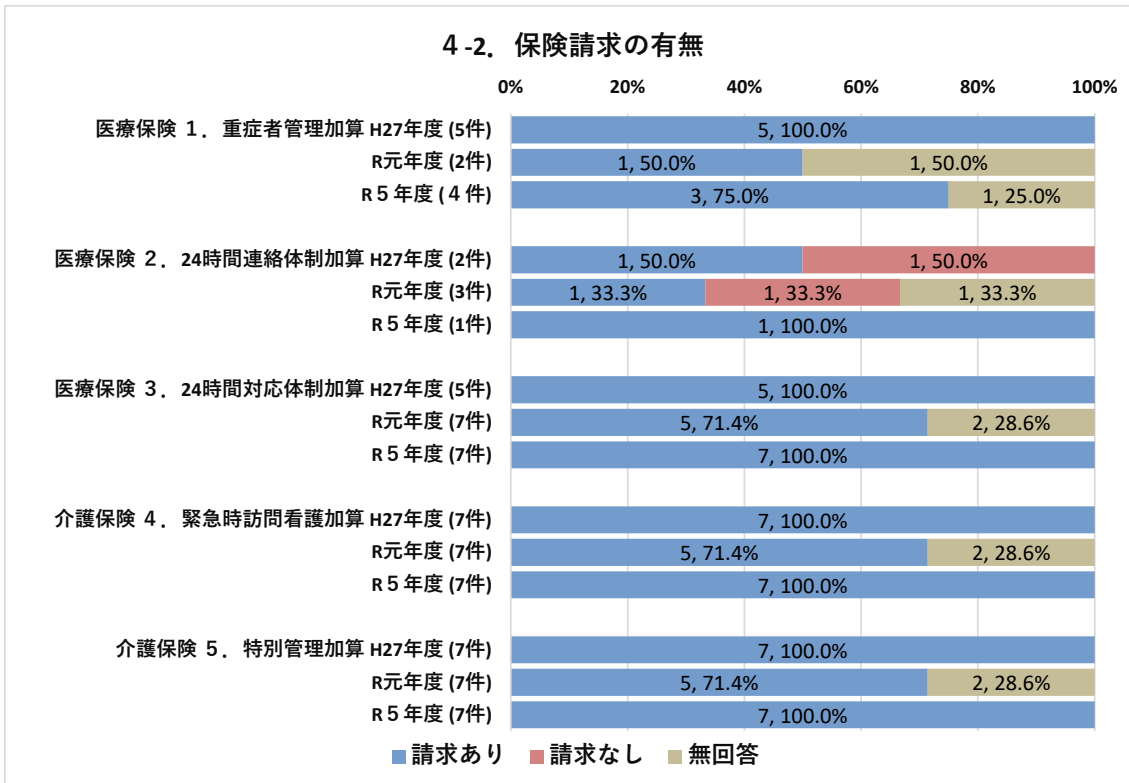
1) 届出加算の有無

全ての訪問看護ステーションが「医療保険 3. 24時間対応体制加算」「介護保険 4. 緊急訪問看護加算」「介護保険 5. 特別管理加算」について「届出あり」と回答している。



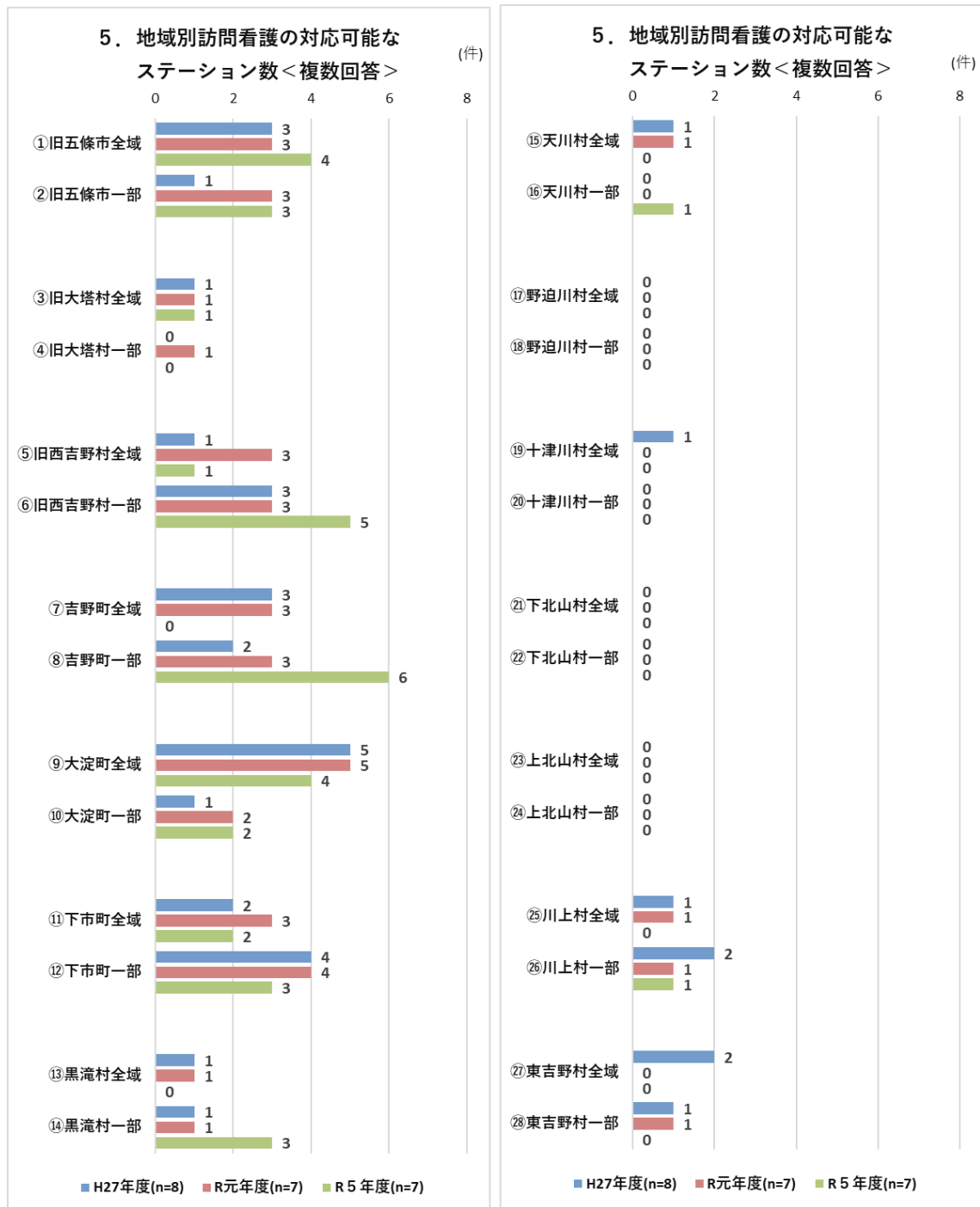
2) 届出ありの場合の保険請求の有無

「請求なし」と回答した訪問看護ステーションはない。



(5) 地域別訪問看護の対応可能なステーション数(複数回答)

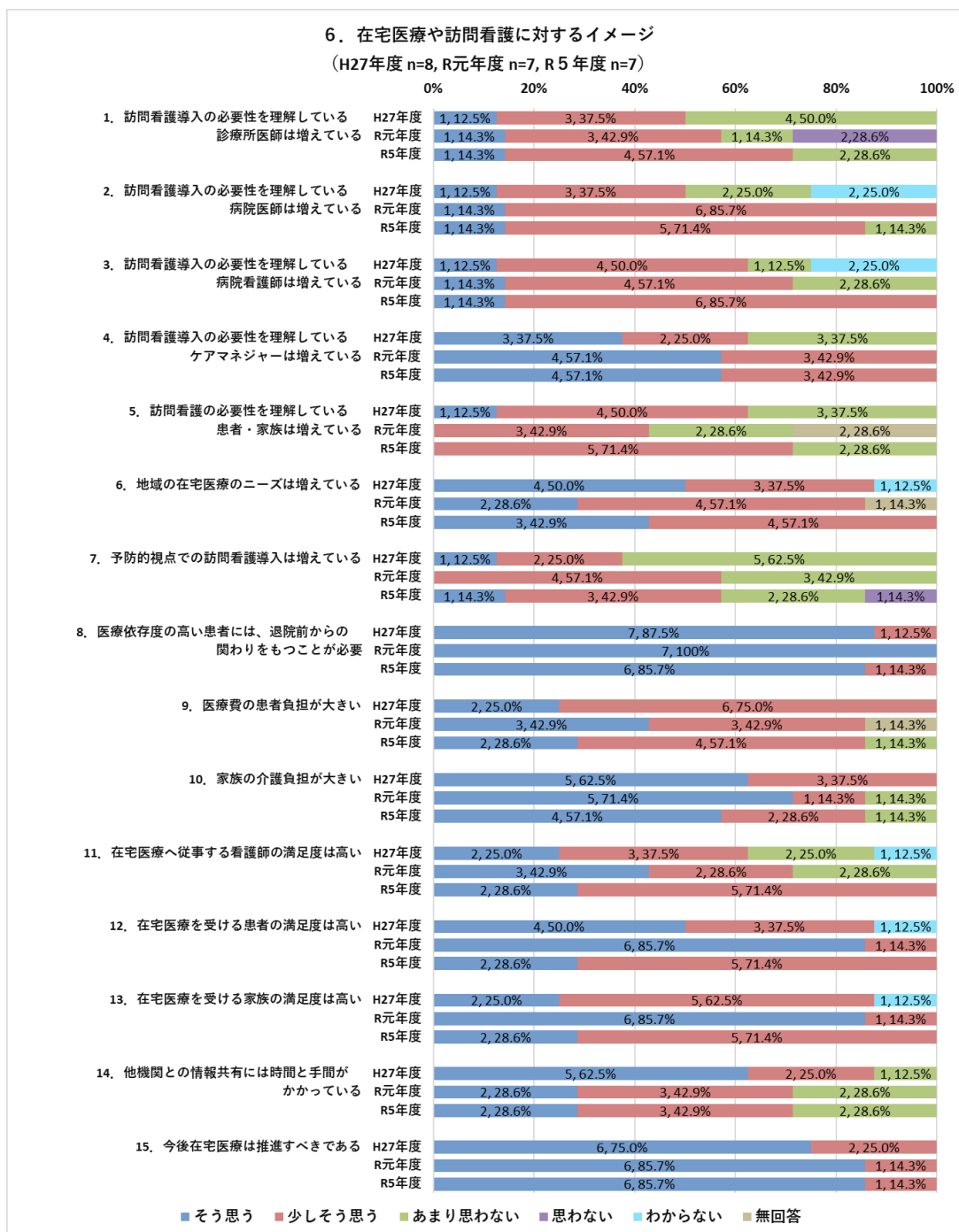
村部は1市3町(五條市・吉野町・大淀町・下市町)と比較して、対応可能な訪問看護ステーションが少ない。特に、「野迫川村」「十津川村」「下北山村」「上北山村」「東吉野村」については、全域・一部のいずれも対応ができない。



## (6) 在宅医療や訪問看護に対するイメージ

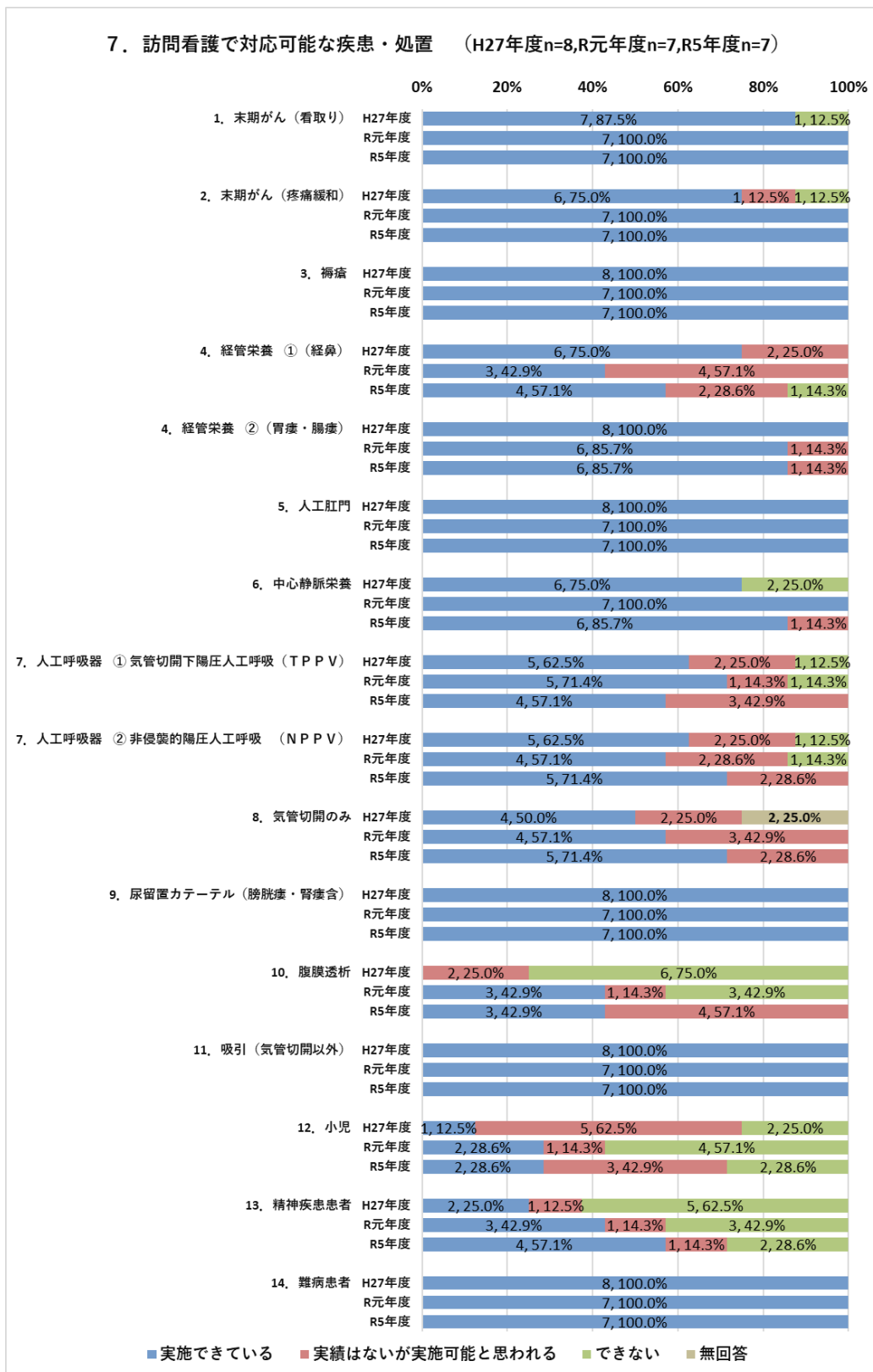
「3. 訪問看護導入の必要性を理解している病院看護師は増えている」「4. 訪問看護導入の必要性を理解しているケアマネジャーは増えている」「6. 地域の在宅医療のニーズは増えている」「8. 医療依存度の高い患者には、退院前からの関わりを持つことが必要」「11. 在宅医療へ従事する看護師の満足度は高い」「12. 在宅医療を受ける患者の満足度は高い」「13. 在宅医療を受ける家族の満足度は高い」「15. 今後在宅医療は推進すべきである」について、全ての訪問看護ステーションが、「そう思う」「少しそう思う」と回答している。

一方、「7. 予防的視点での訪問看護導入は増えている」について、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は4割以上と最も高い。



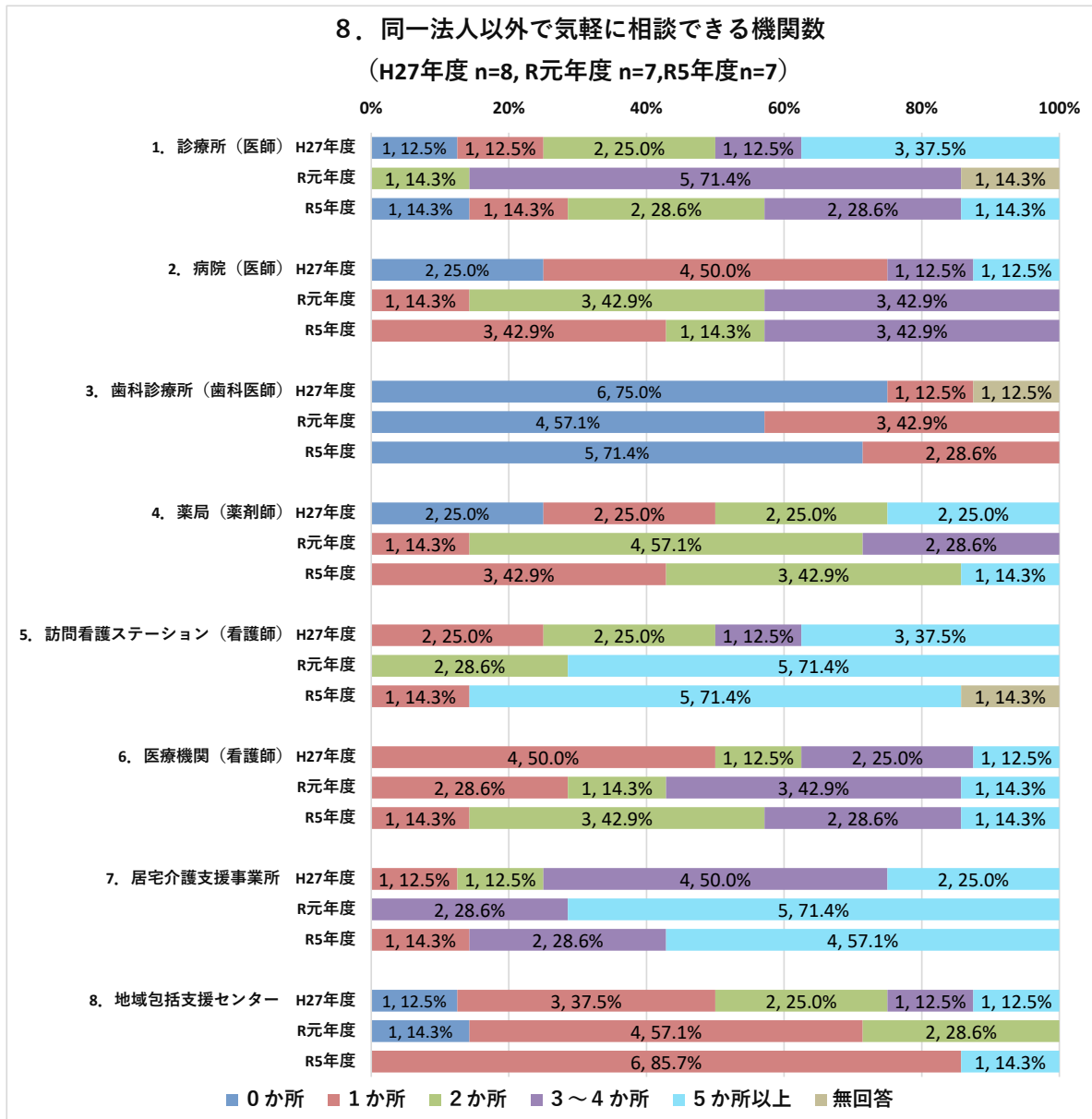
(7) 訪問看護で対応可能な疾患・処置

「4. 経管栄養（経鼻）」「12. 小児」「13. 精神疾患患者」は、「できない」と回答した訪問看護ステーションがあるが、その他の項目については全ての訪問看護ステーションが「実施できている」「実績はないが可能と思われる」と回答している。また、「10. 腹膜透析」「13. 精神疾患患者」について、「できない」と回答している割合が減少している。



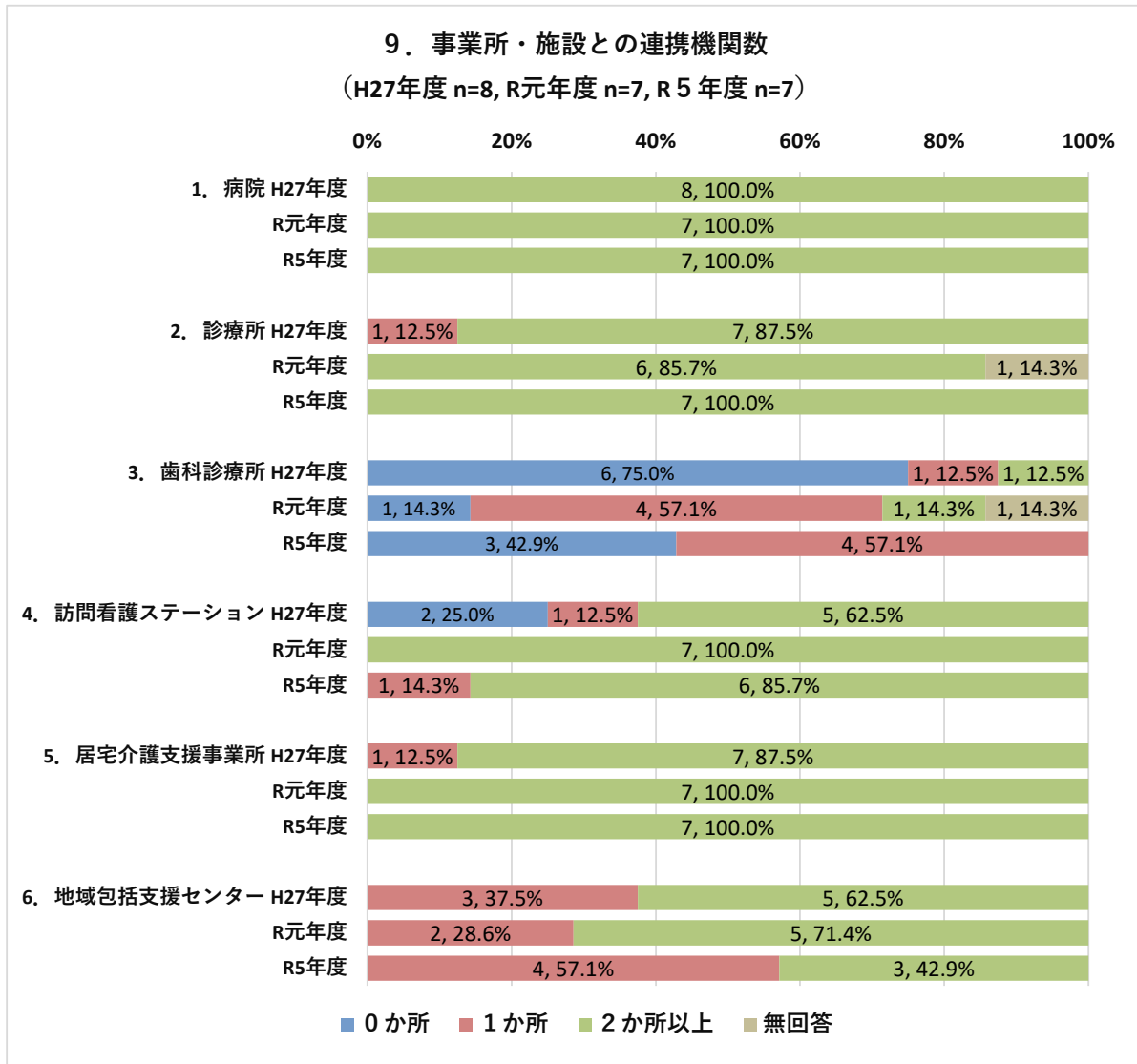
(8) 同一法人以外で気軽に相談ができる機関数

気軽に相談できる機関数が「0か所」と回答した割合は、「3. 歯科診療所（歯科医師）」が5件（71.4%）と最も高く、次いで「1. 診療所（医師）」となっている。一方、その他の機関については、1か所以上気軽に相談できると全ての訪問看護ステーションが回答している。



(9) 事業所・施設との連携機関数

事業所・施設との連携機関数が「0か所」と回答した割合は、「3. 歯科診療所（歯科医師）」が3件(42.9%)と最も高い。一方、その他の機関については、1か所以上の事業所・施設と連携していると全ての訪問看護ステーションが回答している。

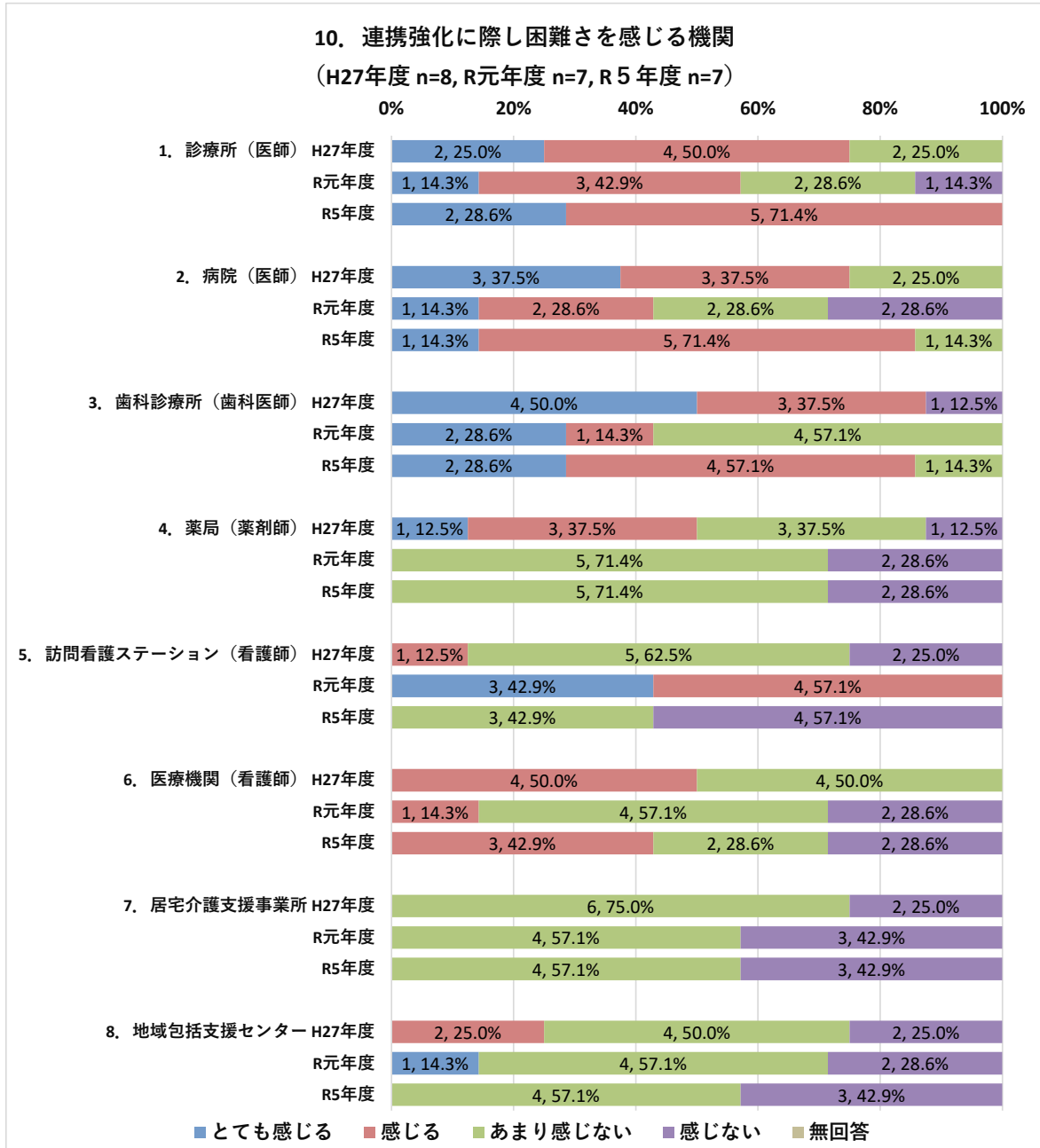




(10) 連携強化に際し困難さを感じる機関

連携強化の困難さを「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、「1. 診療所（医師）」が100%と最も高く、次いで「2. 病院（医師）」「3. 歯科診療所（歯科医師）」が85.7%となっており、増加傾向となっている。

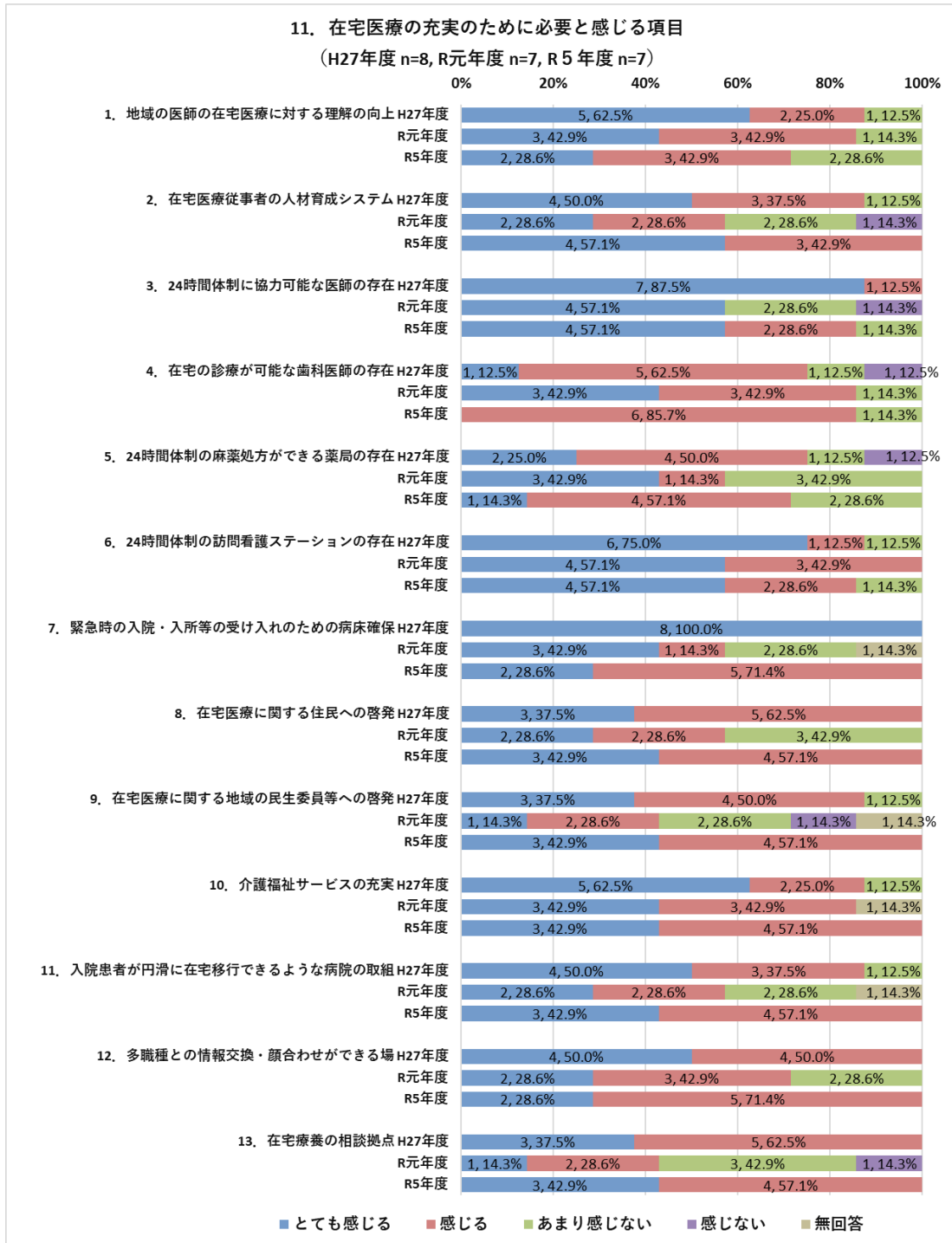
一方、「4. 薬局（薬剤師）」「5. 訪問看護ステーション（看護師）」「7. 居宅介護支援事業所」「8. 地域包括支援センター」について、全ての訪問看護ステーションが「あまり感じない」「感じない」と回答している。



### (11) 在宅医療の充実のために必要と感じる項目

在宅医療の充実のために「2. 在宅医療従事者の人材育成システム」「7. 緊急時の入院・入所等の受け入れのための病床確保」「8. 在宅医療に関する住民への啓発」「9. 在宅医療に関する地域の民生委員等への啓発」「10. 介護サービスの充実」「11. 入院患者が円滑に在宅移行できるような病院の取組」「12. 多職種との情報交換・顔合わせができる場」「13. 在宅療養の相談拠点」が必要であると全ての訪問看護ステーションが感じている。

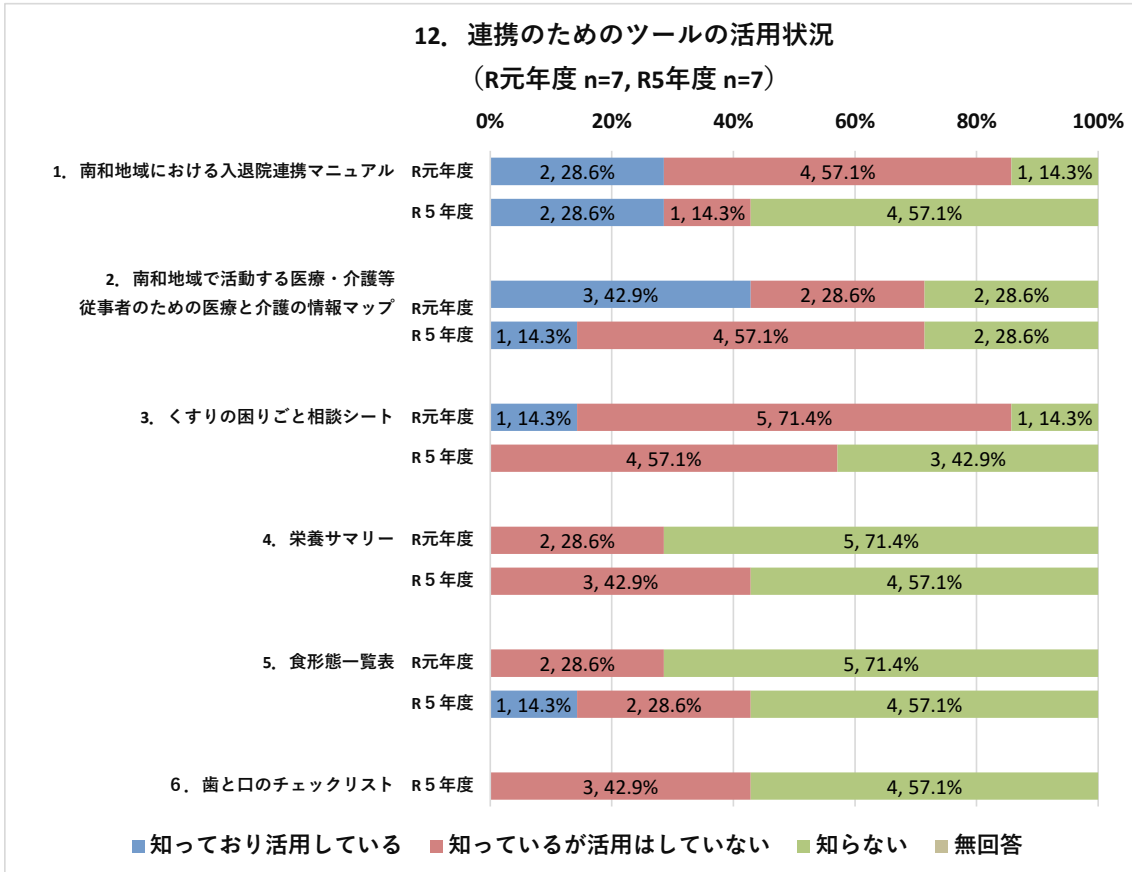
一方、「1. 地域の医師の在宅医療に対する理解の向上」について、「あまり感じない」と回答した割合が増加している。



(12) 連携のためのツールの活用状況

「1. 南和地域における入退院調整マニュアル」「4. 栄養サマリー」「5. 食形態一覧表」「6. 歯と口のチェックリスト」について、「知らない」と回答した割合は4件(57.1%)と最も高くなっている。また、「1. 南和地域における入退院調整マニュアル」「3. くすりの困りごと相談シート」について「知らない」と回答した割合が増加している。

「2. 南和地域で活動する医療・介護等従事者のための医療と介護の情報マップ」「3. くすりの困りごと相談シート」について、「知っており活用している」と回答した割合が減少している。



(13) 在宅医療に関する意識(主観)

「1. 他関係機関との連絡がしやすくなった」「2. 在宅医療体制は整った」「3. 貴院の在宅医療への関心が高まった」「4. 関係機関全体の在宅医療への関心が高まった」について、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は半数以上となっているが、R元年度より減少している。

また、「5. 市町村担当課との連絡がしやすくなった」は、「あまり感じない」「感じない」と回答した割合が4件(57.2%)と最も高い。

